

「福島第一原子力発電所構内における土壤中の放射性物質の核種分析の結果について  
(続報 26)」(平成 23 年 7 月 29 日発表)

誤

(別紙 3)

福島第一原子力発電所 土壤中の Am, Cm 分析結果

1. 測定結果

(単位: Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238*1	Pu-239*1 Pu-240*1	U-234*2	U-235*2	U-238*2	Am-241	Cm-242	Cm-243 Cm-244
①グラウンド(西北西約500m)	6月6日 日本分析 センター	(1.7±0.14) ×10 <sup>-1</sup>	(6.6±0.80) ×10 <sup>-2</sup>	(8.0±0.41) ×10 <sup>0</sup>	(3.8±0.72) ×10 <sup>-1</sup>	(8.8±0.44) ×10 <sup>0</sup>	(3.4±0.74) ×10 <sup>-2</sup>	(1.7±0.083) ×10 <sup>0</sup>	(1.1±0.14) ×10 <sup>-1</sup>
②産廃処分場近傍(南南西約500m)		(6.7±0.91) ×10 <sup>-2</sup>	(2.6±0.54) ×10 <sup>-2</sup>	(5.9±0.36) ×10 <sup>0</sup>	(2.9±0.70) ×10 <sup>-1</sup>	(5.7±0.35) ×10 <sup>0</sup>	(2.2±0.55) ×10 <sup>-2</sup>	(1.1±0.052) ×10 <sup>0</sup>	(4.1±0.75) ×10 <sup>-2</sup>
1~3号機における平均核種濃度比(Pu-238を1とした場合の比)*3		1	—	—	—	—	0.1	10	1

\*1:平成23年6月22日公表 \*2:平成23年7月7日公表 \*3:ORIGENコードによる計算値(概数)

2. 評価

今回検出されたAm及びCmは、以下の理由により、今回の事故に由来することが考えられる。

- ・Cm-242/Cm-243/Cm-244は自然界に存在しない核種であり、特に半減期の比較的短いCm-242(半減期:約160日)が検出されていること
- ・試料番号①②のPu-238に対する各核種(Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244)の濃度比が1~3号機における平均組成比とほぼ同じであること  
試料番号① Pu-238:(Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244)≒1:(0.2/10/0.6)  
試料番号② Pu-238:(Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244)≒1:(0.3/16/0.6)

以上



正

(別紙 3)

福島第一原子力発電所 土壤中の Am, Cm 分析結果

1. 測定結果

(単位: Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238*1	Pu-239*1 Pu-240*1	U-234*2	U-235*2	U-238*2	Am-241	Cm-242	Cm-243 Cm-244
①グラウンド(西北西約500m)	6月6日 日本分析 センター	(1.7±0.14) ×10 <sup>-1</sup>	(6.6±0.80) ×10 <sup>-2</sup>	(8.0±0.41) ×10 <sup>0</sup>	(3.8±0.72) ×10 <sup>-1</sup>	(8.8±0.44) ×10 <sup>0</sup>	(3.4±0.74) ×10 <sup>-2</sup>	(1.7±0.083) ×10 <sup>0</sup>	(1.1±0.14) ×10 <sup>-1</sup>
②産廃処分場近傍(南南西約500m)		(6.7±0.91) ×10 <sup>-2</sup>	(2.6±0.54) ×10 <sup>-2</sup>	(5.9±0.36) ×10 <sup>0</sup>	(2.9±0.70) ×10 <sup>-1</sup>	(5.7±0.35) ×10 <sup>0</sup>	(2.2±0.55) ×10 <sup>-2</sup>	(1.1±0.052) ×10 <sup>0</sup>	(4.1±0.75) ×10 <sup>-2</sup>
1~3号機における平均核種濃度比(Pu-238を1とした場合の比)*3		1	—	—	—	—	0.1	10	1

\*1:平成23年6月22日公表 \*2:平成23年7月7日公表 \*3:ORIGENコードによる計算値(概数)

2. 評価

今回検出されたAm及びCmは、以下の理由により、今回の事故に由来することが考えられる。

- ・Cm-242/Cm-243/Cm-244は自然界に存在しない核種であり、特に半減期の比較的短いCm-242(半減期:約160日)が検出されていること
- ・試料番号①②のPu-238に対する各核種(Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244)の濃度比が1~3号機における平均組成比とほぼ同じであること  
試料番号① Pu-238:(Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244)≒1:(0.2/10/0.6)  
試料番号② Pu-238:(Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244)≒1:(0.3/16/0.6)

以上

福島第一原子力発電所 土壌中の Am, Cm 分析結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238*1	Pu-239*1 Pu-240*1	U-234*2	U-235*2	U-238*2	Am-241	Cm-242	Cm-243 Cm-244
①グラウンド(西北西約500m)	6月6日 日本分析 センター	(1.7±0.14) ×10 <sup>-1</sup>	(6.6±0.80) ×10 <sup>-2</sup>	(8.0±0.41) ×10 <sup>0</sup>	(3.8±0.72) ×10 <sup>-1</sup>	(8.8±0.44) ×10 <sup>0</sup>	(3.4±0.74) ×10 <sup>-2</sup>	(1.7±0.083) ×10 <sup>0</sup>	(1.1±0.14) ×10 <sup>-1</sup>
②産廃処分場近傍(南南西約500m)		(6.7±0.91) ×10 <sup>-2</sup>	(2.6±0.54) ×10 <sup>-2</sup>	(5.9±0.36) ×10 <sup>0</sup>	(2.9±0.70) ×10 <sup>-1</sup>	(5.7±0.35) ×10 <sup>0</sup>	(2.2±0.55) ×10 <sup>-2</sup>	(1.1±0.052) ×10 <sup>0</sup>	(4.1±0.75) ×10 <sup>-2</sup>
1~3号機における平均核種濃度比(Pu-238を1とした場合の比)*3		1	—	—	—	—	0.1	10	1

\*1 : 平成23年6月22日公表    \*2 : 平成23年7月7日公表    \*3 : ORIGENコードによる計算値(概数)

2. 評価

今回検出されたAm及びCmは、以下の理由により、今回の事故に由来することが考えられる。

- ・ Cm-242/Cm-243/Cm-244 は自然界に存在しない核種であり、特に半減期の比較的短いCm-242(半減期:約160日)が検出されていること
- ・ 試料番号①②のPu-238に対する各核種(Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244)の濃度比が1~3号機における平均組成比とほぼ同じであること

試料番号① Pu-238 : (Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244) ≒ 1 : (0.2/10/0.6)

試料番号② Pu-238 : (Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244) ≒ 1 : (0.3/16/0.6)

以上